

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100050		
法人名	富士工業株式会社		
事業所名	グループホームせせらぎ1階		
所在地	田村市船引町船引上江148-2		
自己評価作成日	平成31年4月29日	評価結果市町村受理日	令和元年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和元年6月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ご利用者は、ホームでの生活を馴染みの環境として楽しく生活をしている。
②医療連携看護師や主治医との連絡や意見交換ができている。
③毎月の行事やレクリエーション等で楽しく過ごしている。
④消防防災訓練が良く行われている。
⑤ご利用者は、自分で出来る方には新聞たたみや、洗濯干しや洗濯たたみを手伝ってもらっている。
⑥理髪店に行ける方は、スタッフがサポートして付き添っている。 運営推進会議で情報を伝えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者の有する能力に応じて菜園での野菜作りや食事の片付け、洗濯物たたみ等をしてもらい、また、散歩や外出等を通して自立した日常生活を営むことが出来るよう支援している。
2. 花見会、誕生会、夏祭り、クリスマス会等、毎月季節に応じた行事や飾り付けを行い、利用者が楽しい生活が送れるよう支援している。
3. 事業所職員として看護師を配置しており、適切な医療対応がなされている。また、4カ所の協力医療機関と契約し、訪問診療や訪問看護、緊急時の対応等、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所以来、朝礼にて毎日、理念がの唱和を行い職員一人一人が意識して実践するように日々取り組んでいる。	事業所理念を毎朝の申し送り時に全員で唱和をしている。また、毎月開催しているスタッフ会議の中でも、管理者から理念に対する意識付けを行い、利用者が笑顔で楽しい生活が送れるよう支援に努めている。理念は事務所内に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフと共に利用者が散歩したり季節の行事などで出かけたりして、地域と係わりをもつようになっている。又、ボランティアの方に訪問して頂き、楽しく過ごせるように協力して頂いている。	事業所周辺での散歩や買い物に出掛けたり、野菜等の差し入れ等の機会を通して交流を図っている。また、自治会に加入したり、市の文化祭に作品を出展する等、地域との関わりが多く持てるよう取り組んでいる。踊りや歌等のボランティアや、中学生の体験学習等も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭などに作品を展示して頂き、認知症とはどのようなものか、又、支援するにはどうすれば良いか発信しているか、今後も努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、会議を設け利用者、利用者の家族に地域住民の方に今のホームの現状を報告し問題点や疑問に思っていることを話し合い、意見や要望を取り入れ、サービスの向上に努力している。	会議を定期的開催し、利用者状況や行事の報告、ヒヤリハットや外部評価結果の報告等を行い、メンバーから意見等をもらい、サービスの向上に活かしている。また、防災訓練の見学も行っている。会議録は事務所内に掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と電話やFAXで連絡を取り合いホームの現状を伝え状況が把握できるように連携し協力して頂いている。	事業所の運営状況を報告したり、他の市町村からの利用希望や生活保護の取扱い、処遇困難な事例等について、市担当者とは連絡を取り合っている。また、市の介護相談員を受け入れ、利用者の意向の反映に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内で勉強会を行い、スタッフ全員が正しい知識を持って身体拘束をしないケアができるように日々取り組んでいる。	スタッフ会議等を通して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、家族とは、利用開始時や必要の都度、リスクについて話をしている。日中、玄関の施錠は行わず、見守り等で対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ニュース等で報じられている事件を題材にし、会議等で取り上げ、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学び、利用者様にとって自立支援につながるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に基づき、説明を行い、利用者様、家族様には理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に6回の運営す信会議を開催し、運営に反映されている。	家族からは、面会時や状況報告の折、意見や要望を聞いている。利用者からは、日々の関わりの中で意見や要望を把握し、それらを運営に活かしている。玄関には投書箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全て職員意見の反映まではいっていないと思われる。(所長は、スタッフ会議やユニット会議、その他各種委員会などや随時に適時意見は集約している。)	管理者は、各種の会議や日々の業務の中で声掛けを行って、意見や要望を聞いている。また、必要に応じて個別に話す機会を設け、運営に反映出来るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の介護に費やされているのが現状である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年4回の勉強会を開催し、知識取得に努めている。研修会の情報が開示されない為情報が伝わっていない。内部研修や外部の研修機会を周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他施設と入居の状況を意見交換し訪問を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員を中心に家族や利用者様から話を傾聴し安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話をしを傾聴し、その方に合った生活支援ができるように信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況にあったサービス、支援ができるようにその都度状態の変化に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは、お願ひし常に声掛けに努めている。信頼関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族便りで、その時の状況を伝え問題がある時は、家族に連絡し共に本人の支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の問題がある期間は、面会を制限し、それ以外は面会や外出は可能となっている。	利用開始時に、馴染みの人や場所を把握している。理美容室と馴染みの関係が出来、訪問理美容を受けるまでになってきている。また、家族の協力を得ながら、食事や買い物、帰宅等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーション等を通して、利用者同士が協力し合い、笑顔で過ごせるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、必要に応じて家族の相談に応じ、より良い信頼関係を保てよう工夫している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向を聞きその希望に応じられるように努めている。外出買い物は家族の方の協力も得ている。	担当職員が、日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。また、思い等を発することが困難な利用者には、声掛けを行って表情の変化等から推測し把握に努めている。スタッフ会議の中で課題等を話し合い、本人本位に支援している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方、本人様から面会時や日常生活の中で話を聞きスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のその日の状態も違うので声掛けし、レクリエーションに参加できるときは、気分がのらないときなどは、本人様の自由に過ごしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議にご利用者も稀に参加して下さることもあるが、意見があった際、希望に添えるよう支援している。今後の課題も含め話し合いを行っている。	ユニット会議の中で、利用者や家族の意向や、職員の様々な意見から現状に即した介護計画を作成している。介護計画の期間は、当初は1カ月とし、その後状況に応じて、3カ月または6カ月の期間で作成している。また、入退院等で状態が変化した場合は、モニタリングを実施して、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった際は、ケース記録に記入し会議の際やスタッフ間で話し合い、都度介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のケース会議やミーティングを通して本人の状況と家族の思いを話し合い、その時々状況に応じた対応や支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れやドライブ、近くのスーパーなどに出かけ、楽しく生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を家族の付き添いで受診しているが、受診が難しい場合は訪問診療に切り替えて、スタッフが受診に同行している。	かかりつけ医の受診は、家族の付き添いで行っている。職員は、利用者の様子をメモ書きし、家族に手渡して情報を共有している。訪問診療に変更した利用者の受診結果は、毎月発送している家族便りの中で、日々の生活状況報告と共に、利用者の家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師と24時間連絡がとれる状態になっている。いつでも適切な対応が出来るように体制をとっている。また、週1回の勤務日に指導援助をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、定期的に面会に行き状況を把握し、主治医からの治療方針や説明を受け情報交換や相談をして連携を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期においての説明を行い、状態に応じ、家族と話し合っている。看取りケアのマニュアルを準備しスタッフに周知し医療連携も結びついて対応できる体制ができている。	重度化した場合の看取り指針、事前確認書が策定されている。入居時に利用者と家族に説明し同意を得ている。対応マニュアルを整備して、協力医、看護師、職員と連携しながら、看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急や事故が発生した場合に備え、訓練しているが応急手当の講習会の機会があれば参加検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っている。消防署に協力して頂き、災害時を想定しての訓練をしている。また、水害対策の避難も計画検討。	防災委員会が年間計画を立て、消防署立ち会いの避難訓練や通報訓練等を実施している。運営推進会議メンバーが防災訓練を見学したり、行政区長も緊急連絡網に名を連ねる等、周囲の協力を得られるよう努めている。水や保存食、ラジオやヘルメット等の物品や、常備薬等が入った非常持ち出し袋も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフで話し合いを行い、一人一人に合った声掛け対応ができるように心がけている。	日頃から個人を尊重した所作、声掛けを大切にしている。学習委員会が接遇・マナー基準等について勉強会を開催し、その質を高めている。利用者の個人情報、鍵付きのキャビネットで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がどのように過ごしたいか、コミュニケーションを通して自己決定ができるように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の意思を尊重し、その日の体調や気分を考慮しながらレクリエーションを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	歯磨き、髪の毛などできることは、やって頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事中、各テーブルにスタッフが座り介助又は、声掛けし見守りながら行なっている。	献立は、管理栄養士が作成している。行事食等で利用者の希望を反映させている。食事や食後の後片づけを職員と利用者が一緒に行っている。園芸委員会と利用者が一緒になって育てた野菜を献立に反映させ、みんなで収穫の喜びを分かち合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせ食事形態を工夫している。むせりとか、水分が飲みづらい方には、トロミを付けて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は虚空ケアをして頂けるよう、声掛けを行い、自分でできない利用者様には介助し確実にを行うように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった時間には、声掛けを行い、排泄の訴えがあるときには、個人の能力にあった支援を行っている。	職員は、利用者の排泄チェック表により、時間や様子等からさりげなく声を掛けを行い、トイレでの排泄が出来るよう支援している。また、居室にトイレが設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状態をスタッフ同士で、把握し下剤を使用する時は身体の状態にあった服薬して頂き、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態をスタッフ同士で共用し、利用者のペースにあった入浴をして頂くように努めている。	利用者は週2回、午前中に入浴している。清拭、シャワー浴、半身浴等状態に合わせた入浴支援を行っている。脱衣室には暖房設備があり、寒い季節も快適に衣服の着脱が出来るようになっている。入浴剤を使って気分を変えることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、安眠できるよう、利用者の生活リズムを整えるために日中は、レクリエーションの参加を促すようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは個人の服薬状況を確実に把握し、体調の変化がある場合は、スタッフ同士で共用し、ナースに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節を感じる行事を行い、軽い運動やレクリエーションを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や理容店など、又はドライブなどの支援を行っている。	外に出て菜園の野菜の成長を見たり、近隣住宅の庭に咲く花を愛でたり、近くのドラッグストアに買い物に出かける等、思い思いに過ごしている。家族の付き添いで理容店に出かける利用者もいる。職員と一緒に四季折々のドライブを楽しみに遠出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホームで管理している。日用品や消耗品等、一人では購入できない方にはスタッフが代わりに買ってくる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度、依頼があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間や場所の空間がまぶしい時は、スタッフが調整しテレビなど見やすいように考慮している。	共有スペースは広々としており、温度や湿度、衛生面の管理が行き届いている。朝は、8時45分まで音楽を流し穏やかな気持ちでスタート出来るよう支援している。壁面に掲示されている季節の飾りや、利用者の笑顔の写真が室内を明るく暖かい雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置や配席など、調整している。楽しく交流できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの環境や、プライバシーに注意して居室では入りには配慮して安心できるようにしている。	電動ベッド、エアコン、換気扇、室内物干し、トイレのほか、クローゼットが備え付けられており広々とした室内である。利用者は、テレビやソファ等愛着のあるものを持ち込んで暮らしている。協力医に紹介された訪問マッサージを居室で受けている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる所と、できない所を見極めている。着替えや口腔衛生ができる人には行ってもらう。又、衣類の収納や出し入れ等会話しながら援助している。		